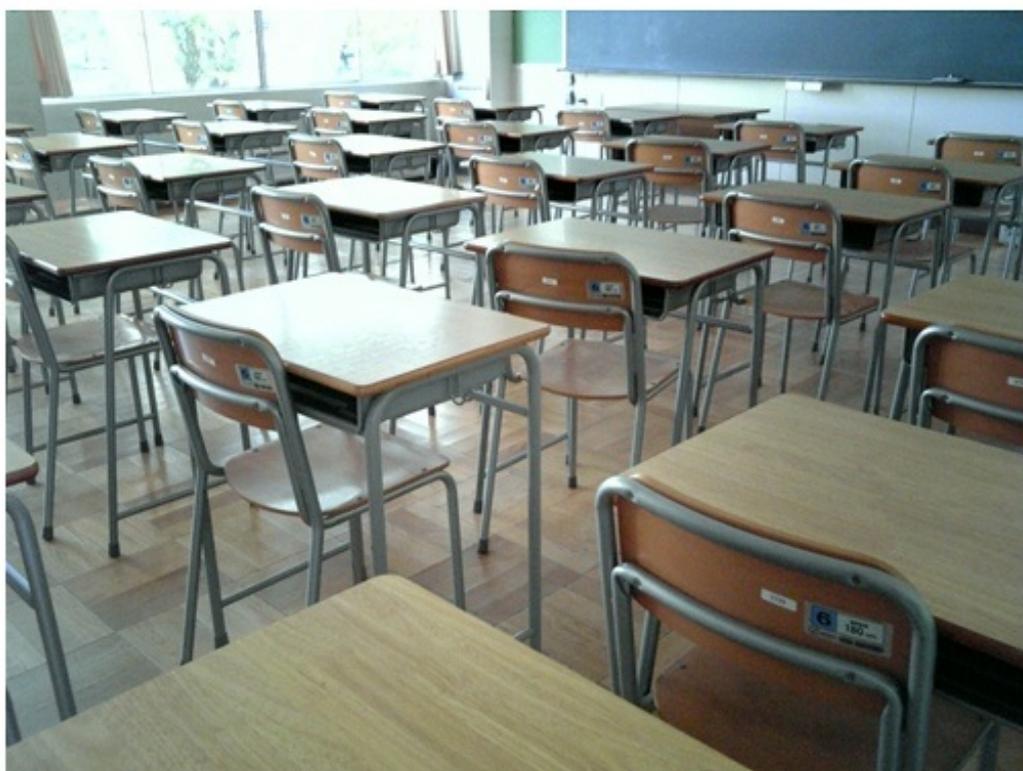


# 田周率

3. 1415926535 8474323846 2643383279 5028841971  
6439937510 5820974944 5423078164 0628620844  
8628034825 3421170679 8214808651 3282306647  
0438446095 5058223172 5354408128 4811174502  
8410270193 8521105559 6446224484 ...



作・JUMP NOZAKI

「おじいちゃんって、中学校の算数のセンセイなんだって？」

お盆に里帰りした娘は自分の子どもに入れ知恵をしたらしい。小遣いの催促か。

「どうして来年インタイするの？」

これは、言葉に詰まる。インタイときたか。要するに定年退職ということ。しかし、自分は元気だ。まだまだ、仕事をしたい。教室にいたい。自分は授業さえ、できればいい。そのために、教頭になるのも、校長になるのも拒んだ。

「おじいちゃん、今、わたしの通っている小学校でね、円の面積を計算するときは、面倒くさいから円周率は3で計算してるんだ。ママが変だねって言ってたよ」

面倒くさいか。面倒くさいというのが今の世の中の定理のようだ。面倒くさいことは、世の中にはたくさんあって、それを克服する力を身につけるのが教育ではないのか。

孫は、私が少しむっとしているのを見て取ってか、言葉を続けた。「でもね、円周率って、複雑な計算をしないと求められないから、コンピュータの性能を比べるものさしになって役立っているんだって」

毎年、図形の授業の始めに、儀式のように行うことがある。私は、小学校の復習だといって円周率の話をし、おもむろに円周率を黒板に書いてゆく。

3. 141592653589793238462643383279...

さすがに二十桁を過ぎると教室の中に尊敬の風が吹いてくる。教科書のどこかに書いてあるものと比べだすものもある。ほんの一時の恍惚感を味わう瞬間。数学の美しさを語るときだ。

数学の美しさを、全ての子どもが味わうことはできないだろう。それはわかる。しかし数学を教える私が、数学が美しいといわねば子どもの誰一人としてそう思うものはいないだろう。私は、これが数学に給料もらっている自分の仕事だと思っている。

娘夫婦の里帰りの喧騒が去って数日後の朝。目が覚めた。しかし、体が動かない。意識が、はっきりしているのに、布団の中の自分の体に感覚がない。自分は大丈夫だろうか。このまま逝ってしまうのか。気は焦るのだが、もどかしさで時が流れる。体が動かないのは、なんらかの脳の障害が発生したということか。

ふと、この前、孫の「円周率はコンピュータの性能比べに役立っている」という言葉が浮かんだ。そうだ、人間様のコンピュータである脳がやられていないか、円周率で確認できるに違いない。

自分は大丈夫だ。ちょっと疲れが出ただけに違いない。軽い気持ちで円周率を唱えることで心を落ち着かせようとした。サン。あれ。頭の中にサンは現れるが、その後は……。

ダメだ。続く数字がなにも出てこない。

数字が出てこないばかりか、孫の「おじいちゃん、円周率は3なんだよー」という声がどこか遠いところで響いている。

「いやちがう」

大きな声で叫びたかった。しかし、私の意識が、そして、目の前がだんだんと真っ白になっていった。